

2018

大学院医学系研究科修士課程(看護学専攻)のご案内

Master's Degree Program of Graduate School of Nursing

あなたが光輝くために専門職としてのキャリアアップ

 国立大学法人
浜松医科大学
〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111
<http://www.hama-med.ac.jp/>

問い合わせ先

入試に関すること 入試課入学試験係

TEL.053(435)2205 FAX.053(433)7290

E-mail : nyushi@hama-med.ac.jp

大学院に関すること 学務課大学院係

TEL.053(435)2204 FAX.053(435)2233

E-mail : daigakuin@hama-med.ac.jp

 国立大学法人
浜松医科大学

昼夜開講制や長期履修制度を導入 仕事をしながら、あなたのスタイルで 柔軟に学べます

これまで修得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決力、創造性と基礎的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者の養成を目的としています。

教育目標

- 1) 特定の専門分野での看護実践の場における研究活動を通じて、高度な専門的知識と技術の向上・開発を図る能力の修得
- 2) 看護学教育と実践活動の場において、専門性の高い教育的機能を果たす能力の修得
- 3) 看護実践を通じて、専門性と倫理観に基づくケアの提供、研究を行える能力の修得
- 4) 看護の専門領域に関わる新しい課題にチャレンジできる高度な能力の修得
- 5) 文化的、社会的背景を考慮して健康問題をとらえ、国際的に活躍できる高度な能力の修得

浜松医科大学大学院医学系研究科修士課程の特徴

- ◎ 4年制大学卒業者に限らず、専門学校や短期大学の卒業者も入学できます。
- ◎ 医療分野の看護に関連する領域で働く方（保育士、栄養士、健康運動指導士等）の在籍実績があります。
- ◎ 修士課程を修了した後、本学の博士課程（医学）へ進学することもできます。
- ◎ 本学附属病院のほか、勤務先も研究フィールドとできるようバックアップ体制が整っています。

図書館

図書館では、看護学分野の専門書をはじめ、研究活動を支援するための図書、学術雑誌、AV資料などを揃えています。

開館時間	月曜日～金曜日	9:00～20:00
	土曜日・日曜日	10:00～17:00

※申請により開館時間外や休館日でも24時間利用できます。

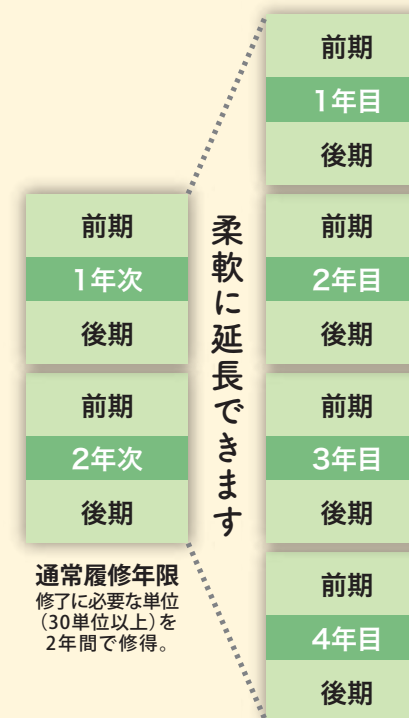


働きながら学ぶ学生を支援するプログラム

長期履修制度

学ぶ期間を延ばせる

2年分の授業料で、履修年限を延長して、修了に必要な単位（30単位以上）を3～4年間で修得。通学日や時間割を柔軟に配分することができます。ただし、助産師養成コースの履修者は長期履修制度の利用はできません。



昼夜開講制

一日を有効に活用

夜間開講により仕事や子育てをしながらでも無理なく学べます。夕方6時から9時の授業を中心に各自のワークスタイルやライフスタイルにあわせて無理のないペースで学べます。



浜松医科大学大学院修士課程（看護学専攻）は、現在臨床の場で活躍している看護師や保健師等も気軽に学べる場です。カリキュラムも「自分の学びたい領域を深く学ぶ」、「領域を超えて広く学び教養を深める」などキャリアアップのために、あなたの希望や目標にあわせて自由に組み立てられるようにしています。

納付金

入学金／282,000円

授業料／年額：535,800円

（前期分：267,900円
後期分：267,900円）平成29年度実績



基礎看護学

修士論文コース

p4

専門分野、研究領域及び授業科目一覧

基礎看護学

健康科学領域

解剖学、生理学、微生物学、薬理学、免疫学などの基礎的な知識と研究方法を学びます。これにより、科学的思考を養うことで、看護学のさらなる発展に寄与する人材を育成したいと考えています。

基礎看護学領域

基礎看護学に関する研究方法を学びます。ゼミナールでは、ディスカッションを通して、自分の看護実践を見つめ直すことで、看護の質の向上に寄与する研究指導を行っていきたいと考えています。

p4

成人・老人看護学

成人看護学領域

慢性看護、がん看護、急性期看護、周手術期看護、遺伝看護等に関する看護の質の向上を目指した実践と研究課題を追究しています。修論コースおよび高度看護実践コース(クリティカルケア看護CNS課程)の指導を行っています。なお、H31年度の入試からは、高度看護実践コース(クリティカルケア看護CNS課程)の学生募集は行いません。

老人看護学領域

多様な状況にある高齢者と家族の健康に関する諸問題を理解し、基本的な研究能力を修得します。これにより、高齢者の健康障害に関連した社会のニーズに対応できる実践家及び看護研究者の育成を目指しています。

p5

母子看護学

母性看護学領域

関連領域の最新の課題をとりあげ、知識、技術、自己の価値観、倫理性を高める学習を行います。研究の基礎から論文の作成に至るまで、科学的根拠に基づいて丁寧に教授します。

小児看護学領域

小児看護の現状と課題を見据え、小児看護関連の理論の基礎的理解を目指して、小児がん看護、発達障害児の看護等現在のトピックを交えながら学習します。また、小児看護学領域を中心とした看護教育や対人関係の基礎的理論を学習します。「学ぶ楽しさ」を実感してください。

p6

地域・精神看護学

地域看護学領域

地域看護学の概念・理論を教授し、効果的な活動方法を探求します。行政及び産業における健康問題を解決するためのエンパワメント能力の育成や質的・量的研究方法について具体的に丁寧な指導を行います。

精神看護学領域

悩みを抱える人、心を病む人、発達過程にある人等、さまざまな対象におけるメンタルヘルス上の課題に焦点をあて、現状と関連要因を究明し、効果的な援助方法を明らかにするために研究を進めています。

p7

助産師養成コース

p8

修士生のことば

p9

授業科目及び単位数

区分	専門分野	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	摘 要
共通科目		看護研究	1	2	修論コース 4単位以上を選択
		看護教育論	1	2	
		看護理論＊1	1	2	
		看護倫理＊1	1	2	
		看護政策論＊3	1	2	
		免疫学	1	2	
		医療薬理学	1	2	
		病理学	1	2	
専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論＊1	1	4	(1)専門分野のうち 主領域の特論及び 演習の8単位を選択 (2)(1)で選択した以外 の特論4単位以上を 選択 (3)特別研究14単位を 必修
		基礎看護学演習	1・2	4	
		健康科学特論	1	4	
		健康科学演習	1・2	4	
	成人・老人看護学	成人看護学特論＊2	1	4	
		成人看護学演習	1・2	4	
		老人看護学特論	1	4	
		老人看護学演習	1・2	4	
	母子看護学	母性看護学特論	1	4	
		母性看護学演習	1・2	4	
		小児看護学特論	1	4	
		小児看護学演習	1・2	4	
	地域・精神看護学	地域看護学特論＊3	1	4	
		地域看護学演習	1・2	4	
		精神看護学特論	1	4	
		精神看護学演習	1・2	4	
特 別 研 究			2	14	

* 1 基礎看護学特論には、看護理論 2 単位及び看護倫理 2 単位を含む
(基礎看護学特論を履修しようとする者は、看護理論、看護倫理を選択できない)。

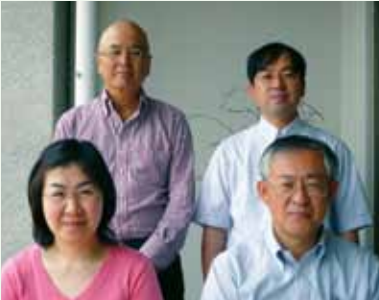
* 2 成人看護学特論には、急性期看護学特論 2 単位を含む。

* 3 地域看護学特論には、看護政策論 2 単位を含む
(地域看護学特論を履修しようとする者は、看護政策論を選択できない)。

健康科学領域

Health Science

健康科学では看護の臨床・研究で土台となる生理学、薬理学、病理学、免疫学、微生物学の基礎的研究を通じて、知識の習得、科学的思考を養成することにより、看護学・基礎医学の一層の発展に寄与することをめざしています。



渡邊 泰秀 永田 年
山下 寛奈 三浦 克敏

基礎看護学領域

Fundamental Nursing

基礎看護学領域では、看護技術や看護教育方法の創出、看護管理、看護倫理、様々な看護場面における心理的側面の検討等に関する質的・量的研究を通じ、看護学と看護実践の発展に寄与することを目指します。研究指導は、各自が興味・関心を持つテーマについて、関連論文の抄読・検討、研究計画の作成から研究の実施、関連学会での発表、論文作成まで、セミナーなどグループでのディスカッションを中心とし、学生の個別の事情に合わせて個人指導も行います。



青木 好美 村松 妙子
片山 はるみ 鈴木 美奈

研究内容

医療薬理学部門

心筋細胞内Ca動態に大きく関わるNa⁺/Ca²⁺交換輸送体の機能に焦点をあて、ホルモン、神経液性伝達物質、局所ホルモンの作用、心筋保護薬などの薬物の作用、病態時における役割などについて細胞電気生理学的手法を用いて研究します。

病 理 部 門

形態学を主に分子生物学や免疫学の方法を用いて、病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の過程を調べ、疾病の理解を深めます。ヒト乳頭腫ウイルスによる子宮頸部癌や頭頸部癌の発症病理、超音波顕微鏡を用いた組織のイメージング、グリセロリン脂質やアミロードシスの発症機序、妊娠異常と胎盤の変化などについて研究しています。

感染免疫学部門

結核菌等の細胞内寄生細菌に対する免疫応答、バイオフィーム形成細菌の殺菌に関する研究等をおこなっています。

教員の研究テーマ・主な業績

渡邊 泰秀(教授)・・・細胞電気生理学、薬理学

- Wei J, Watanabe Y, Takeuchi K, Yamashita K, Tashiro M, Kita S, Iwamoto T, Watanabe H, Kimura J: Nicorandil stimulates a Na⁺/Ca²⁺ exchanger by activating guanylate cyclase in guinea pig cardiac myocytes, Pflugers Archiv-European Journal of Physiology, 468, 693-703, 2016.

三浦 克敏(教授)・・・超音波顕微鏡、頭頸部病理、代謝障害の病理

- Miura K, Yamamoto S: A scanning acoustic microscope discriminates cancer cells in fluid, Scientific Reports, 19, 15243, 2015.
- Miura K, Egawa Y, Moriki T, Mineta H, Harada H, Baba S, Yamamoto S: Microscopic observation of chemical modification in sections using scanning acoustic microscopy, Pathological International, 65, 355-366, 2015.

永田 年(教授)・・・微生物学、免疫学

- Ikedo M, Enomoto N, Nagata T et al.: Nontypeable *Haemophilus influenzae* exploits the interaction between protein-E and vitronectin for the adherence and invasion to bronchial epithelial cells, BMC Microbiology, 15, 263, 2015.
- Matsui Y, Nagata T et al.: Three-year prospective, observational study of central line-associated bloodstream infections in a 600-bed Japanese acute care hospital, Am J Infect Control, 43, 494-498, 2015.

研究内容

看護学教育

看護学教育における様々な課題の解決に向け、技術の教育法、感染予防行動の形成など、新たな教育方法の開発とその効果を検証する研究に取り組んでいます。

看護場面の心理的側面の検討

ケア従事者のコンピテンシーの抽出と教育プログラム作成、看護学生・看護職者のメンタルヘルスや中堅看護師のキャリア開発、それらに関連する尺度開発等、心理学の知識を応用した研究に取り組んでいます。

看護における倫理

看護職者に必要な倫理的能力の教育に関する研究や看護学生の倫理的感受性の育成に関する研究に取り組んでいます。

教員の研究テーマ・主な業績

片山 はるみ(教授)

- 青木好美, 片山はるみ: 救急業務に従事する看護師の自殺未遂患者に対するケア遂行の現状, 日本看護科学会誌, 37, 1-10, 2017.
- Aoki Y, Katayama H: Statistical Validation of the Self-Harm Antipathy Scale-Japanese Version (SHAS-J), Journal of Nursing & Care, 6(6), 2017.
- 松本志保子, 片山はるみ: 回復期リハビリテーション看護に従事する看護師のコンピテンシー, 日本看護管理学会誌, 21(1), 17-29, 2017.
- Katayama H, Matsumoto S, Kamata Y, Negi K, Suzuki T, Aoki Y, Sato Y, Suzuki M, Muramatsu T: The Competencies of Nurses Engaged in Recovery Rehabilitation Nursing in Japanese Hospitals, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2017, in Hong Kong.
- 青木好美, 片山はるみ: 自傷行為に対する反感態度尺度の日本語版の信頼性と妥当性, 日本看護科学会誌, 36, 255-262, 2016.
- 下川唯, 片山はるみ: 中堅看護師の役割に対する「やりがい感」と「負担感」の同時認知と精神的健康や仕事意欲との関連, 日本看護科学会誌, 35, 247-256, 2016.

鈴木 美奈(准教授)

- 鈴木孝嘉, 鈴木美奈, 片山はるみ: 新卒看護師指導に関わる実施指導者のコンピテンシー第1報, 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017
- 鈴木美奈, 深見翔子, 村松紋那, 八木美紗希: 口腔ケアに用いるスポンジブラシの効果的な消毒方法, 第32回日本環境感染学会学術集会, 兵庫, 2017.
- 鈴木美奈, 村松妙子, 水嶋好美, 下川唯, 片山はるみ: タブレット端末による動画撮影を通した無菌操作技術の学習効果の検討, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.
- Aoshi T, Nagata T, Suzuki M, Uchijima M, Hashimoto D, Rafiei A, Suda T, Chida K, Koide Y: Identification of HLA-A* 0201-restricted T-cell epitope on the MPT51 protein, a major secreted protein derived from Mycobacterium tuberculosis, by MPT51 overlapping peptide screening. Infect Immun, 76, 1565-1571, 2008.
- Suzuki M, Aoshi T, Nagata T, Koide Y: Identification of H2-Dd- and H2-Ab-restricted T-cell epitopes on a novel protective antigen, MPT51, of Mycobacterium tuberculosis. Infect Immun, 72: 3829-3837, 2004.

成人看護学領域

Adult Nursing

成人看護学領域では、成人期にある患者と家族を対象とし、その発達段階の特徴をふまえ、健康障害の特徴ならびに各経過における特徴に関する実践および研究課題を追究しています。具体的な研究内容は、がん看護、慢性看護、急性期看護、周手術期看護、遺伝看護等に関する研究です。

研究指導は、月2回の英語論文抄読会、成人看護学研究検討会、および個別指導等により行っています。



杉山 琴美 河島 光代
森 恵子 佐藤 直美

研究内容

がん看護	がん罹患した人々の、身体的・心理社会的・スピリチュアルな状況について分析・検討し、質の高い療養生活支援のための看護について検討する。
慢性看護	慢性病患者の疾患のとらえ方や治療に対する適応のプロセスについて分析・検討し、効果的な看護介入について検討する。
急性期看護	クリティカルケアを要する状況に置かれた患者に対する看護支援について検討する。
周手術期看護	手術療法が患者の日常生活に及ぼす影響について、患者の体験を質的に明らかにし、そこから、術後生活再構築過程を促進するための看護支援について検討する。
遺伝看護	遺伝的問題をもつ患者および家族の、身体・心理・社会・倫理的状況について分析し、必要な看護を検討する。

教員の研究テーマ・主な業績

佐藤 直美(教授)・・・がん看護、遺伝看護、慢性看護

- 1) Sato N, Sato T, et al.: Genetic aspects of smoking behavior in the Japanese population, Preedy VR, ed. Neuropathology of drug addictions and substance misuse Vol 2. London, Elsevier, 1046-1054, 2016.
- 2) 佐藤直美: 脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助 筋萎縮性側索硬化症. 鈴木久美, 野澤明子, 森一恵(編) 成人看護学慢性期看護第2版, 南江堂, pp412-418, 2015
- 3) 佐藤直美: 脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助 重症筋無力症. 鈴木久美, 野澤明子, 森一恵(編) 成人看護学慢性期看護第2版, 南江堂, pp419-427, 2015.
- 4) Sato N, Nozawa A, et al.: Assessment scales for nicotine addiction, J Addict Res Ther S1, 008, doi:10.4172/2155-6105, 2012.
- 5) 佐藤直美: 日々の実践に生かすがん遺伝看護 基礎知識①-⑤, ナーシング・トゥデイ, 25, 28-32, 2010.

森 恵子(教授)・・・がん看護、周手術期看護、クリティカルケア看護

- 1) Mori K, Akimoto N: Effects of chemotherapy-induced alopecia on male cancer patients. International conference on cancer nursing 2016, Hong Kong, China, 2016.
- 2) 森恵子(雄西智恵美, 秋元典子編集): 周手術期看護論(第3版) 開腹術を受ける人の看護, 296-308, ヌーヴェルヒロカワ, 2014.
- 3) Mori K, Akimoto N, Ujihara K: Experience of patients with esophageal cancer who underwent reconstruction via subcutaneous route. International conference on cancer nursing 2015, Vancouver, Canada, 2015.
- 4) 森恵子, 三原典子, 宮下美記他: がん化学療法に伴う脱毛体験が患者の日常生活に及ぼす影響, JNl (The Journal of Nursing Investigation), 11 (2), 14-23, 2013.
- 5) 森恵子(雄西智恵美, 秋元典子編集): 第V章 がん手術患者に対するリハビリテーション リハビリテーション看護の特徴(手術をめぐるがん看護 意思決定支援から術後リハビリテーション看護まで), がん看護, 18, 235-239, 南江堂, 2013.
- 6) 森恵子, 秋元典子: 食道切除術後の回復過程において補助療法を受けた患者の術後生活再構築過程, 日本がん看護学会誌, 26, 22-31, 2012.

母性看護学領域

Maternal Nursing & Midwifery

「midwife」の語源は、「woman who is with the mother」であり、女性の側に寄り添い、新しい命の誕生に立ち会うという助産師の普遍的な使命があります。社会の変化に対応できる母性看護を考えるために社会構造の変化、多様化する社会、女性の社会進出、在日外国人やハンディキャップをもつ母子などの課題を母性看護学の理論やこれまでの研究を活用して考察します。そして、女性と家族に焦点をあててこれからの時代に相応しい母性看護を皆さんと一緒に考えていきます。



木村 幸恵 齊本 美津子 田坂 満恵
安田 孝子 武田 江里子

小児看護学領域

Child Nursing

小児看護学領域では、少子高齢化に伴うさまざまな社会の変化に対応するために、子どもと家族を対象とした看護職に求められる役割と課題について理解します。その上であらゆる健康レベルの子どもと家族の看護における研究課題を追求し、得られた知見を看護実践、教育に活用できる能力の育成を目指します。

研究指導は、小児看護学に関する書籍・論文検討を実施し、研究課題に関する個別指導、関連学会・研究会での発表指導、母子看護学合同ゼミなどを行っています。



宮城島 恭子 坪見 利香

研究内容

女性へのケア	妊娠糖尿病になった女性の分娩後の経過と医療チームの支援のあり方、子育て中の母親のおしゃれ意識と子どもへの思い、母親が出産後に再喫煙する関連要因、若い女性のやせや月経周期と生活習慣の関連などに取り組んでいます。
子育て支援	母親の養育者としての発達、周産期の女性の気質に応じた支援およびSAT法(Structured Association Technique)を用いた支援を研究しています。在日外国人も含む母子・家族を対象としています。

教員の研究テーマ・主な業績

安田 孝子(教授)・・・母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルトリートメントの傾向、妊娠糖尿病妊婦の食事・生活行動の調査、妊娠中に禁煙した母親が出産後に再喫煙する実態、月経周期と生活行動と精神的要因の関連

- 1) Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Shibata Y: Relationship between maternal fashion consciousness and mothers' feelings about their child rearing among Japanese women who raise their 18-month-old child. 31th International Confederation of Midwives, Toronto, Canada, 18-22 June 2017.
- 2) 安田孝子, 尾島俊之, 中村美詠子: 月経周期と生活行動要因・精神的要因との関連, 静岡県母性衛生学会誌, 6, 11-14, 2016.
- 3) Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Nagai A, Tanaka T, Kondo N, Suzuki K, Yamagata Z: Postpartum smoking relapse among women who quit during pregnancy: cross-sectional study in Japan, Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 39, 1505-1512, 2013.

武田 江里子(教授)・・・母親の養育者としての発達に関する研究、周産期の母親の気質に応じた支援、SAT (Structured Association Technique: 構造化連想) 法を用いた子育て支援、在日外国人の母子支援、尺度開発

- 1) Takeda E: The Connection Between the Temperament of Mothers of Infants and Concerns They Wish to Resolve, The 13th International Family Nursing Conference, in Pamplona, Spain June 14 - 17, 2017.
- 2) 武田江里子, 他: 乳幼児を子育て中の母親から子どもへの「愛着・養育バランス」に影響する内的要因―母親の被養育体験と内的作業モデルの影響―, 日本看護学会誌, 36, 71-79, 2016.
- 3) Takeda E, et al.: The development of a maternal caregiving system: Based on changes in the attachment-caregiving balance scale up to 6-7 months postpartum, Journal of Japan Academy of Midwifery, 27, 237-246, 2013.

老人看護学領域

Gerontological Nursing

急速に進展する超高齢社会、医療の高度化、変化する保健福祉システム、多様な生活や家族のありよう等、社会の変化に対応するための老年看護に関する看護ケア開発及び看護実践への応用について研究、教育を行なっています。老人看護学の質の向上に寄与するために高齢者の生活の質やケアの質を追求し、自らの看護実践、教育、研究等に発展活用できる能力の育成を目指します。



内藤 智義 鈴木 みずえ

研究内容

認知症をもつ高齢者がよりよく生きるための看護実践方法の開発	認知症のために記憶を奪われ苦悩に直面する高齢者と家族、その人のケアに関わる看護師も含めた保健・医療・福祉専門職がともによりよく生きるための看護実践の開発を行っています。パーソン・センタード・ケアを理念に地域・急性期病院・高齢者施設のあらゆる場における認知症看護のあり方を追求していきます。
介護予防に関する看護実践の開発	高齢者になると老化現象に伴う肉体的・精神的な仕組みや働きが低下して、特有の症状・病態、さらに心身の障害に陥る老年症候群(生活機能低下、転倒骨折、排泄障害、摂食嚥下障害など)を起こしやすくなり、看護の専門性の高い実践が高齢者の生命予後にも影響しています。転倒・骨折などの老年症候群の原因分析やそれらを引き起こす痛みのアセスメント、さらには予防に関する看護方法を開発しています。
認知症高齢者への排便ケアモデルの構築に関する研究	高齢者施設における看護職・介護職が実践している認知症高齢者の排便障害への取り組みから、各専門職のケアの内容、専門職種間の連携・協働がつくりだすケアの内容を明らかにし、認知症高齢者が「その人らしく、心地よく排泄する」ことを支えるケアとはどのようなものか、ケアモデルの全体像を考案するよう取り組んでいます。
在宅高齢者の疼痛の実態、疼痛が及ぼす日常生活への影響	その他にも、高齢者のその人が本来もっている力や心身の機能の維持・改善を支えるための看護、保健・医療・福祉システムの中での多職種連携における看護専門性の明確化もまた、取り組むべき課題と位置付けています。

教員の研究テーマ・主な業績

鈴木 みずえ(教授)・・・高齢者の介護・転倒・認知症予防のための看護介入方法・ケアシステムの開発、高齢者のQOLの向上のための看護介入・看護ケア効果評価

- 1) 鈴木みずえ, 吉村浩美, 宗像倫子, 鈴木美恵子, 須永訓子, 勝原裕美子, 桑原弓枝, 水野裕, 長田久雄: 急性期病院の認知障害高齢者に対するパーソン・センタード・ケアをめざした看護実践自己評価尺度の開発, 日本老年看護学会誌, 20, 36-46, 2016.
- 2) Suzuki M, Tatsumi A, Otsuka T, Kikuchi K, Mizuta A, Makino K, Kimoto A, Fujiwara K, Abe T, Nakagomi T, Hayashi T, Saruhara T: Physical and psychological effects of 6-week tactile massage on elderly patients with severe dementia, Am J Alzheimers Dis Other Dement, 25, 680-686, 2010.

研究内容

発達障害・障害のある子どもへの看護	発達障害児やさまざまな障害をもつ子どもとその家族への看護援助のあり方について検討しています。
小児がん・思春期の看護	がんなど慢性疾患をもつ子どもの思春期・成人期への発達過程を見据えて、健康管理、学校を中心とする社会生活の支援、長期的支援のあり方を検討しています。
小児看護学教育に関する研究	小児看護学実習や講義における学生の学びと効果的な教育方法を検討しています。

教員の研究テーマ・主な業績

坪見 利香(准教授)・・・発達障害児の看護、気になる子どもにかかわる専門職支援

- 1) 坪見利香: 発達障害児に対する看護実践に関する研修プログラムの開発-短期的効果の検証-, 障害理解研究18, 1-10, 2017.
- 2) Tsubomi R: What Children with Developmental Disabilities are troubled about in Outpatient Examinations: Based on the Research with the Parents, The Asian Journal of Disable Sociology 14, 15-24, 2014.
- 3) 坪見利香: 発達障害に関する外来看護師の対応の困難さとコミュニケーション力, 障害理解研究, (15), 21-28, 2014.

宮城島 恭子(講師)・・・小児がん看護、がんサバイバーへの支援、思春期看護

- 1) 宮城島恭子, 他: 小児がん経験者が病気をもつ自分と向き合うプロセス ― 思春期から成人期にかけて病気を自身の生活と心理面に引き受けていくことに着目して―, 日本看護研究学会雑誌, 40(5), 747-757, 2017.
- 2) 宮城島恭子, 他: 小児がんをもつ子どもの学校生活の調整に関する意思決定プロセスと決定後の気持ち ― 活動調整と情報伝達に焦点を当てて―, 日本小児看護学会誌, 26, 51-58, 2017.
- 3) 宮城島恭子, 他: 思春期の小児がん患者の日常生活における自己決定の患児と母親の捉え方, 小児がん看護, 1, 1-12, 2006.

地域看護学領域

Community Health Nursing

WHOが提唱しているプライマリー・ヘルスケア、ヘルスプロモーションの基本理解を踏まえて、地域の集団特性に伴う健康回復、維持増進のために、地域の健康状態把握、資源の活用・資源の開発・看護援助方法について探求します。また、個人・家族及び集団の健康指標、質的・量的評価、顕在・潜在している健康問題の解決のための研究に取り組み、地域看護学領域において研究する能力の育成を目指します。

研究指導は、地域看護学校討会、原著論文抄読会、学会・論文発表指導、個別指導・相談等により行っています。



水田明子 橋爪寛子 佐野雪子 菊地慶子
大塚敏子 巽あさみ

精神看護学領域

Psychiatric-Mental Health Nursing

精神看護学領域では、地域社会におけるメンタルヘルスの現状を把握し、心の健康とその障害を持つ人への理解を深め、精神保健看護に関する研究課題を探索していきます。精神看護学領域における看護実践、研究、教育に貢献する人材の育成を目指します。

学生が関心をもつ領域におけるメンタルヘルス上の課題を明らかにし、研究を勧めていくための指導を行います。研究課題に関する個別指導、研究室研究会での討論などを行います。

【授業担当教員】
予定教員

研究内容

公衆衛生看護	公衆衛生看護活動における虐待予防などについて効果的な介入方法と評価方法の開発、地域住民のQOLの向上に焦点を当てた看護活動、保健福祉計画策定、システム構築、評価の関する全般に関する研究。
産業看護	働く人々を対象に主にメンタルヘルス、ストレス対策と保健指導に対する効果的な看護介入方法と評価方法の開発、健康支援システムの開発、教育方法など労働者のQOL向上を目標とする看護支援方法を検討する。
学校看護	児童・生徒を対象に禁煙教育など効果的な介入方法と評価方法について研究する。
在宅看護	ダブル介護、高齢介護者の社会参加とメンタルヘルスについて研究する。

教員の研究テーマ・主な業績

巽あさみ(教授)・・・子ども虐待予防、メンタルヘルス・ストレス、健康支援システム開発

- 1) 巽あさみ：メンタルヘルス対策に活かす睡眠保健指導の知識とスキル,産業ストレス研究 (Job Stress Res), 24 (4), 375-379,2017.
- 2) Hiruta S, Shimaoka M, Tatsumi A, et al.: Relationship between an amount of Key Tasks and Job Satisfaction among Caregivers and Nurses in Elderly Care Facilities. Annals of Occupational and Environmental Medicine, 26, 24, 1-5, 2014.
- 3) 巽あさみ：働く女性のワーク・ライフ・バランス, Occupational Health Journal, 36, 13-18, 2013.

大塚 敏子(准教授)・・・保健師や保育士の発達障害児の保護者への支援方法の検討、未成年の危険行動に対する予防教育

- 1) 大塚敏子、巽あさみ：発達上“気になる子ども”の保護者に対する保育士の支援内容, 日本公衆衛生看護学会誌,5 (3), 219-229,2016
- 2) 大塚敏子他：高校生の将来喫煙のリスクに対応した喫煙防止教育の効果の検討, 地域看護学会誌, 14, 72-81, 2012.
- 3) Otsuka T, et al.: Influence of environmental factors on the smoking and smoking intention in high-school students of six prefectures in Japan, Japanese Journal of Health and Human Ecology, 74, 114-128, 2008.

水田 明子(准教授)・・・思春期のメンタルヘルス、子どもの貧困と健康格差、ダブル介護、高齢介護者の社会参加とメンタルヘルス

- 1) Mizuta A, Suzuki K, Yamagata Z, Ojima T: Teachers' support and depression among Japanese adolescents, a multilevel analysis, Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology, 1-9, 2016.
- 2) Mizuta A, Fujiwara T, Ojima T. Association between economic status and BMI among adolescents: A community-based cross-sectional study in Japan, BMC Obes, 3, 47, 2016.
- 3) Mizuta A, Noda T, Nakamura M, Tatsumi A, Ojima T. Class average score for teacher support and relief of depression in adolescents: A population study in Japan. Journal of school health, 86, 173-180, 2016.



Midwifery Course

助産師養成コース

助産学

助産師 Midwife ... Mid + wife

助産師(Midwife)とは、女性とともにいる女性を意味しています。周産期の母子・家族はもちろんですが、女性とそこに関わる人々を生涯に亘って支援していく専門職です。本学では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤とした教育を行います。母子とその家族や地域の人々に寄り添い、いかなる対象のニーズにも応え得る高度な診断能力及び科学的根拠に基づいた質の高い実践能力、研究能力、教育力を身に付けることにより、マネジメント力を培い、地域の周産期医療の充実、国際的視野を持って母子保健の発展に貢献できる指導的役割を担える人材の育成を目指しています。



斉本 美津子 安田 孝子
木村 幸恵 武田 江里子 田坂 満恵

授業科目及び単位数							
区分	専門分野	授 業 科 目 の 名 称		授業を行う年次	単位数	必修・選択	
						必修	選択
共通科目		看護研究		1	2	○	
		看護教育論		1	2	○	
		看護理論			2		○
		看護倫理			2		○
		看護政策論			2		○
		免疫学			2		○
		医療薬理学			2		○
		病理学			2		○
4単位							
専門科目	助産学	助産学特論Ⅰ	概論/ヒューマン・セクシュアリティ	1	2	○	
		助産学特論Ⅱ	生殖生命倫理/遺伝学	1	2	○	
		助産学特論Ⅲ	周産期学	1	3	○	
		助産学特論Ⅳ	ウィメンズ・ヘルス	2	1	○	
		助産学特論Ⅴ	助産診断技術学	1	3	○	
		助産学特論Ⅵ	教育方法論/ソーシャルスキル	1	2	○	
		助産学特論Ⅶ	助産管理学	1	2	○	
		助産学特論Ⅷ	地域/乳幼児/DV・虐待	1	3	○	
		助産学特論Ⅸ	ハイリスク/異文化	2	2	○	
		助産学演習Ⅰ	助産診断技術学/東洋医学	1	3	○	
		助産学演習Ⅱ	健康教育	1後～2前	3	○	
		助産学実習Ⅰ	分娩介助/継続事例	1	11	○	
		助産学実習Ⅱ	助産院/継続事例	1後～2前	4	○	
		助産学実習Ⅲ	ハイリスク	2	5	○	
		助産学実習Ⅳ	地域	1	2	○	
		助産学実習Ⅴ	マネジメント	2	1	○	
49単位							
研 究		助産学研究		1	1	○	
		課題研究		2	4	○	
5単位							
修了に必要な単位数					計58単位以上		

履修単位数 58単位 ※本コースには長期履修制度は適応できません。

カリキュラムの特徴

1年次に助産師として必要な基礎的能力及び研究のための基礎的能力を身に付けます。課題研究は、より良いケアに結びつけるための実践的な事例研究や自分の興味関心のあるテーマを絞り込み自由に行います。全ての科目の中で問題意識を持って取り組むことで、自らの課題の明確化及び研究の必要性について学び、課題研究を通して高度実践力・研究力・マネジメント力・教育力・指導力の統合を図ります。演習・実習の中では、在日外国人も含む様々な対象へのケアとして5つの健康教育を実施します。必修単位の半数を演習及び実習に費やしており、実践力が強化できるカリキュラムとなっています。

修了後は、
・修士(看護学)
・助産師国家試験受験資格
・受胎調節実地指導員申請資格
・新生児蘇生法「専門」コース(A)認定
が得られます。



【実習施設】

浜松医科大学附属病院
浜松医療センター
木村産科・婦人科
磐田市立総合病院
聖隷浜松病院

毛利助産所
くさの助産院
矢島助産院
川洲助産院
和助産院
よこさわ助産院

磐田市
静岡県女性相談センター
子ども虐待防止センター
いぬかい小児科
思春期健康相談室
ムンド・デ・アレグリア学校
しんえい保育園

Message From Graduates 修了生のことば

Ueda Norie



平成30年3月修了
地域・精神看護学
(地域看護学領域)
修士論文コース
上田 規江

私が大学院への進学を志したのは、管理栄養士として仕事をする中でより質の高い指導を模索していた頃、卒業生の保健師さんから本学大学院のお話を伺ったことがきっかけでした。

入学当初は、仕事と家庭さらに大学院の両立に不安もありましたが、文献を読むことで自分が疑問に思っていたことへの解決につながる発見や、少しずつではありますが論文の価値を理解できるようになることに喜びを感じることで、研究を進めることができました。また、同じ志を持つ仲間との学び合い、家族の理解も私にとって大きな支えとなりました。振り返ると大学院に在籍していた3年間は、人生の中で最も充実した期間だったと感じます。

研究の基礎知識がなかった私が、計画、実施、解析を行い、論文にまとめることができたのは、地域看護学のゼミでのディスカッションや、指導教授である巽あさみ先生より丁寧な的確な指導をいただいたおかげと深謝しております。また、多領域にわたる授業の受講、医学研究に関する講習会、図書館など大学の教育が充実しており、恵まれた環境であったことにも感謝しております。

修士課程では、専門分野の知識を高めるとともに、論文作成を通して様々な経験を積むことができました。また、熱意をもって取り組むことで道が開けるという前向きな気持ちを持てるようになりました。今後は、研究活動も継続しながら食事の大切さを自分なりに伝え続けていきたいと考えております。

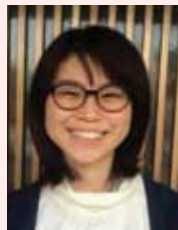
Paku Singan



平成30年3月修了
成人・老人看護学
(老人看護学領域)
修士論文コース
朴 信江

当大学院への入学は、鈴木先生の下へ仕事で疑問に感じていたことを相談に伺った時、「学ばれたらどうですか？」と研究することを勧められたのが切掛けです。「年も年だし、仕事もあるし…」と悩みましたが、その時は単身赴任の身で、仕事以外の多くの時間を研究に振り向けることができると考え、「こんな機会は二度とない」と決心しました。研究生活が始まって見ると仕事との両立は思った以上に大変で、予期せぬ事情で単身赴任を終え大阪に戻ることにってから益々大変になってしまいましたが、研究することは大変興味深く、やりがいを感じました。大学院での授業を通じて、課題や目標を達成するためには経験に基づいた知識だけでなく、統計学を学び、先行研究の文献レビューを行うこと、現状を詳細に分析することの必要性を学びました。また、専門領域の違う様々な院生との意見交換は、クリティークの視点を養い、これまでの経験で積み重ねてきた知識を可視化することや自分の考え方や看護観を省みることに繋がり、有意義でとても楽しく感じていました。修士という学位だけでなく、先生方による多くの知見、新しい友との出会いなど、仕事をしていただけでは得られなかったはずのかけがえの無い多くのものも与えてくれました。全てが貴重な思い出です。当大学院で勉強することは自分の視野を広げ、新しい可能性を見つけることの大切な一歩であったと感じます。支えて下さった皆様には感謝の念に耐えません。本当にありがとうございました。

Takahasi Saki



平成30年3月修了
助産学
(助産学領域)
助産学養成コース
高橋 沙希

本学で助産を学ぶことの利点は、何よりも実習環境が整っているという点だと思います。お産の介助の実習施設では附属病院をはじめとし、医療センターやクリニックに行かせて頂きました。さらには地元や県外の助産院にまで実習に行かせて頂くことで様々な施設の特徴や考え方に触れることができ、数多くの発見・気づき・学びを得ることが出来ました。また、お産の介助だけではなく、様々な環境で5つの健康教育をさせて頂く機会があったことや、地域保健を学ぶために保健センターで実習したことを通して「助産師が対象とすべきは、単に妊産褥婦という周産期の女性だけではなく、新生児から老年期までのすべての女性である。」と気づくことが出来ました。この学びは今後私が助産師として働き、多くの対象者と関わる中での核となる学びとなったと考えています。

また研究や健康教育では、先生方の熱心な指導の下、何度となく仲間とディスカッションをして意見を戦わせました。しかしその分、自分たちが納得するものを作り上げたのだ、という達成感も大きかったように感じます。

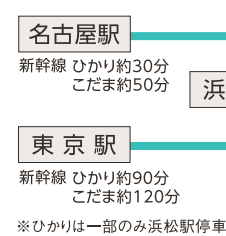
本学で素晴らしい先生方のご指導を受けたこと、そして共に学んだ仲間は一生の宝です。この2年間の学びで得た経験を糧に日々頑張っていきたいと思います。

LOCATION



ACCESS

交通(新幹線・バス)



※ひかりは一部の浜松駅停車

自動車

